

# 原書の序

医療における卓越さとは、単なる知識・スキル・行動のことではない。どのように考え、推論し、決断するかが、医師の最も重要なスキルであることに議論の余地はない。卒前教育・卒後研修において、医師としての実践に必要な知識や技術を教え、評価することは行われているが、臨床推論や意思決定の包括的トレーニングはほとんど行われていない。診断エラーは日常的によくみられ、患者に重大な害をもたらすことが研究によって示唆されており、重要である。典型的には、診断エラーには複数の原因が関与しているが、根本原因の3分の2は人間の認知エラーであり、最も一般的には、利用可能なデータが正しく統合されなかったときに生じている。これらは不適切な知識によることもあるが、多くの場合、不適切な推論が原因である。

臨床推論にはさまざまな要素が含まれ、この本で取り扱っているように、エビデンスに基づく臨床スキル、診断検査の利用と解釈から、考えることを考えるという認知心理学やヒューマンファクターにまで至る。この本は、個々人の学習の導入として、また臨床推論のカリキュラムのための情報源としてもデザインされている。

臨床推論は医師に限定されるものではない。私たちは上級ナースプラクティショナーやそのほかの臨床家のことも念頭に置いてこの本を書き、可能な限り「医師」という言葉よりも「臨床家」という言葉を用いるようにした。

臨床推論は総合診療から外科、集中治療まですべての専門領域に関係している。臨床推論のある側面は新しくない一方で、認知心理学の進歩や患者安全の理解の深化というような、多くの臨床家にとって馴染みのない臨床推論の要素がある。この本のなかでは、臨床推論のさまざまな要素の概論を提示することだけしかできないので、各Chapterには参考文献とその他の情報源のリストを設けてある。また、推薦書籍・論文・ウェブサイトをこの本の最後に掲載したので、読者のみなさんは自分自身でより深く臨床推論について探求を続けることができるようになっている。

私たちは本当に楽しんでこの本を執筆し、編集した。皆さんにもこの本を読み、活用することを楽しんでほしいと願っている。

2016年1月

Nicola Cooper  
John Frain